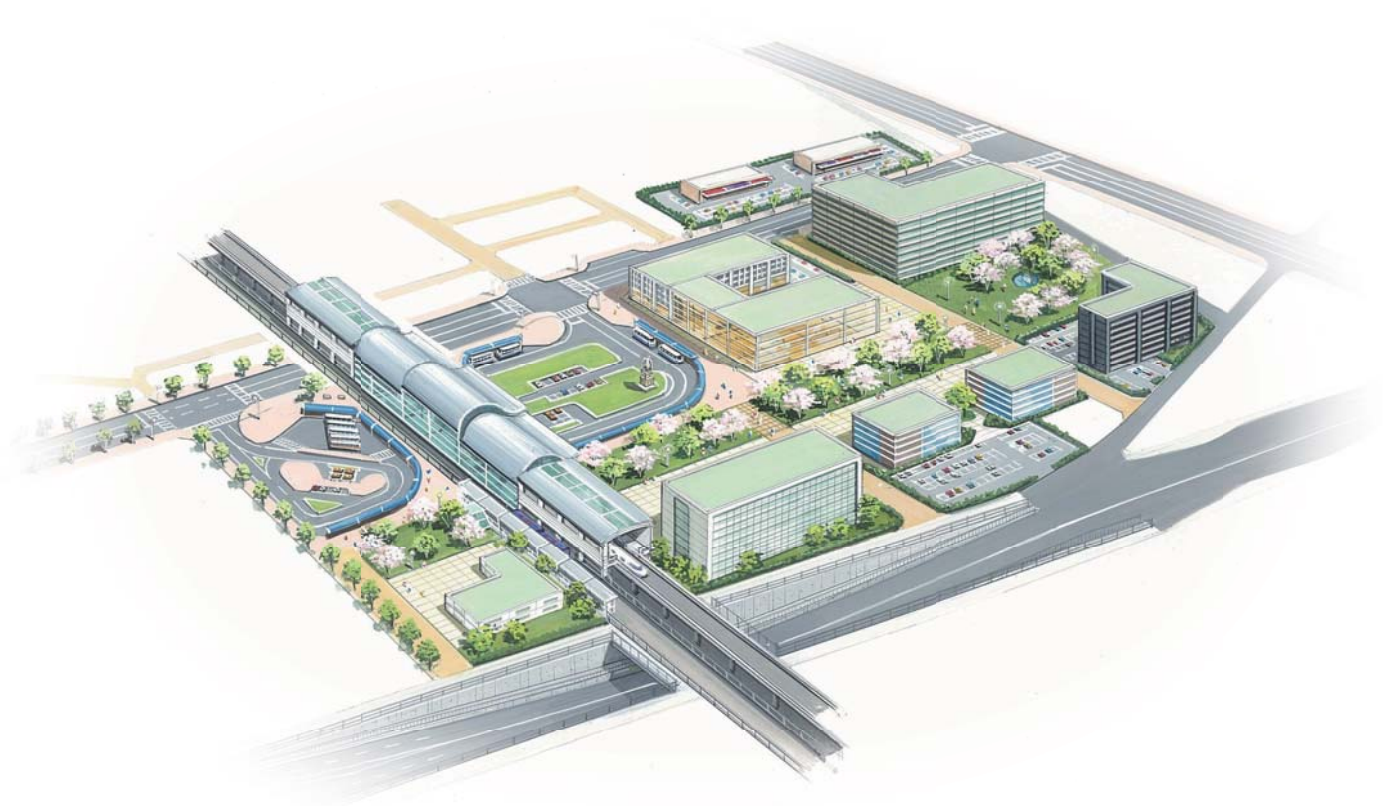


# 大村市新幹線新大村駅（仮称）周辺地域 まちづくり計画



平成26年8月

大 村 市



## ごあいさつ

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）は、平成24年6月に諫早～長崎間の延伸、武雄温泉～長崎間のフル規格での整備に加え、フリーゲージトレイン（FGT）での運行が認可され、開業時期は平成34年春頃とされております。

大村市内には約14kmの新幹線軌道が敷設され、植松地区に新大村駅（仮称）が開設されるとともに北部の竹松町・沖田町には全国で初めてのフリーゲージトレインの「車両基地」が設置されることになっており、市民の長年の夢であった九州新幹線西九州ルートの全体像がようやく見えてまいりました。

長崎空港、長崎自動車道の大村インターチェンジ、新幹線駅という高速交通ネットワークの「三種の神器」が車で10分の圏内に揃うことになる我が大村市は、これまで以上に「長崎県の玄関口」としての役割を果たすのみならず、県内で唯一、今後も人口が増え続ける市として持続可能な都市の発展と市内全域のまちづくりを目指すこととなります。

本計画書は、昨年度実施した「大村市新幹線新大村駅（仮称）周辺地域まちづくり計画策定委員会」からの報告を受けて、新大村駅周辺の整備や今後の市全体のまちづくりについて取りまとめたものです。

西九州ルートの開業を8年後に控え、今後、新大村駅周辺の整備や市北部地域の整備を進めるとともに、市民の皆様と一丸となって新幹線の開業を契機とした新しい大村市のまちづくりを進めることで、「日本でもっとも住みたくなるまち」の実現を目指してまいりたいと思います。

本計画策定にあたり、貴重なご意見をいただきました「大村市新幹線新大村駅（仮称）周辺地域まちづくり計画策定委員会」の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成26年8月



大村市長 松本 崇



## ～ まちづくり計画の概要説明 ～

この計画は、平成25年6月から平成26年3月にかけて開催した「大村市新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画策定委員会」(略称「新大村駅まちづくり委員会」)による報告書をもとに、大村市が推進するまちづくり計画としてとりまとめたものです。

### 1. 新大村駅前周辺ゾーンの整備イメージ . . . . . P. 1

まず、「新大村駅前」のイメージ図(パース図)を掲載しています。

「新大村駅(仮称)」の位置は、市内植松3丁目の国道444号とJR大村線が立体交差する場所(竹松駅寄り)、現在の県立ろう学校の西側正面です。

県立ろう学校については、平成26年3月に県が市内宮小路にある県立大村城南高校竹松農場(県立虹の原特別支援学校隣)を移転候補地として、将来の移転を表明しています。

「新大村駅」の駅舎はJR大村線の東側に沿う形で建設され、2階建てで2階部が新幹線ホームとなる予定です。なお、駅の特徴や駅前の機能展開については、次ページをご参照してください。

新大村駅は大村市内を南北に走るJR大村線沿いであることから、在来線駅を「請願駅」として併設し、中心市街地があるJR大村駅や近隣の竹松駅、諏訪駅、松原駅との乗継の利便を確保することとしています。

そのため在来線ホームが設置される西側へは駅のコンコースから地下式の自由通路を配置しました。また、東西のアクセス道路を直通化できれば車両の往来が極めてスムーズになることから、関係機関との「交差協議」を行うことが求められます。

また、駅前西側は国道34号方面からの大量の車両の流入が予想されることから、渋滞化を避けるため都市計画道路「大村駅前原口線」の部分供用と西側駅前広場までのアクセス道路を設置する必要があります。

駅前広場は、東側は約6,700㎡であり、西側はアクセス道路の直通化を前提として約5,300㎡で構成しています。

### 2. 新幹線車両基地周辺ゾーンおよび文教ゾーンの機能配置 . . . . . P. 3

全国初のフリーゲージトレイン車両基地(約11ha)が市北部の竹松・沖田地

区に設置され、新大村駅から都市計画道路池田沖田線が車両基地の東側を周回する形で国道34号福重橋付近まで建設されます。

また車両基地付近には国道34号を挟んで郡中学校、虹の原特別支援学校があり、県立ろう学校が新たに建設されます。このことから、「車両基地ゾーン」と「文教ゾーン」を計画対象区域に加えました。

現段階では車両基地内の施設配置が不明ですが、車両基地観光や移転する県立ろう学校の通学の利便を確保するため、新たな在来線駅を請願し設置する必要があると思われます。

なお、「文教ゾーン」については、障がいを持つ子供たちも学ぶ地域であることから、通学の利便性、安全性に十分な配慮が必要です。

### 3. 計画対象区域内のまちづくり方針（ゾーン設定）・・・・・・・・・・P. 5

「新大村駅前周辺ゾーン」と市北部の「文教ゾーン」、「新幹線車両基地ゾーン」の整備により、これらの拠点を結ぶ都市計画道路池田沖田線(平成29年頃供用開始)の沿道も、新幹線開業より一足早く市街化が見込まれます。このため計画対象区域の設定においては、計画対象区域内の土地利用ゾーンを8区域に分け、それぞれの開発の方向性を示しました。特に沿道サービスゾーンは今後、飲食店・物販サービス施設や、車両基地関連企業・住宅等の立地が進むと推察されますが、既存の住宅地や良好な河川景観、環境に配慮した開発を進めることが望まれ、配慮する必要があります。

### 4. 新幹線開業に伴うポテンシャルと実現のための課題・・・・・・・・・・P. 7

### 5. 新大村駅（仮称）周辺まちづくりのテーマと基本方針・・・・・・・・・・P. 8

### 6. 新大村駅（仮称）周辺と中心市街地（大村駅）を“両輪”とした都市構造の構築・・・・・・・・・・P. 9

これらの項では、新幹線駅周辺(計画対象区域)の整備効果を如何に大村市全体のまちづくりに繋げるかについて述べています。

新幹線開業に伴う大村市内のポテンシャルとその展開として、「人口増加のチャンスの拡大」、「新たなビジネス展開の可能性」、「北部の市街化の進展」、「中心市街地活性化の牽引」が挙げられます。

その中で、特に現在のJR大村駅前を核とする「中心市街地」との関係強化することは重要です。

さほど広くはありませんが、大村湾に沿って展開する市街地の中で、主に

北部地域の人口増加が続く大村市の都市構造を考えると、大村市が掲げる「日本一住みたくなるまち」を将来にわたって実現するために、新大村駅周辺と中心市街地を両輪として、互いの特色を生かした連携が必要です。

中心市街地については、既定計画のとおり、既存ストックを活かしながら賑わいや交流、文化の発信など大村市の中心地として役割を果たす地域としてのまちづくりを進めます。その一方で、新大村駅周辺は、基本構想で位置づけられた広域交通結節機能に加え、高い交通利便性を活かし市外からの人口誘引（特にヤング・ファミリー層）や企業誘致等を牽引する地域としてのまちづくりを進めることが望まれます。つまり、互いの地域の機能と特色を生かして補完し合い、連携を強めることです。

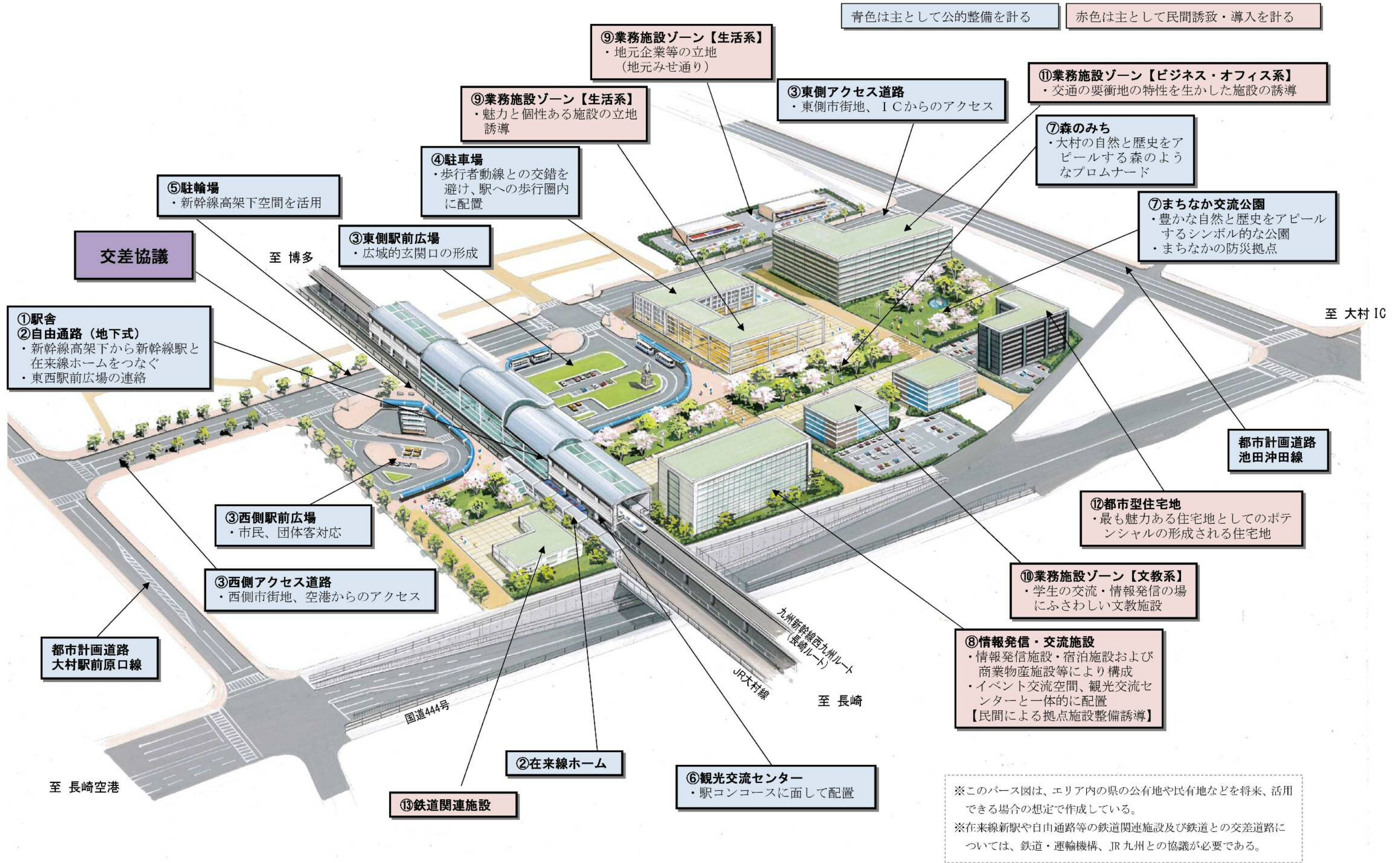
なお、次ページ以降(第6項)に大村市の将来あるべき都市構造のイメージを示します。





## ■ 目 次 ■

<b>1</b>	新大村駅前周辺ゾーンの整備イメージ . . . . .	1
<b>2</b>	新幹線車両基地周辺ゾーンおよび文教ゾーンの機能配置 . . . . .	3
<b>3</b>	計画対象区域内のまちづくり方針（ゾーン設定） . . . . .	5
<b>4</b>	新幹線開業に伴うポテンシャルと実現のための課題 . . . . .	7
<b>5</b>	新大村駅（仮称）周辺まちづくりのテーマと基本方針 . . . . .	8
<b>6</b>	新大村駅（仮称）周辺と中心市街地（大村駅）を “両輪”とした都市構造の構築 . . . . .	9



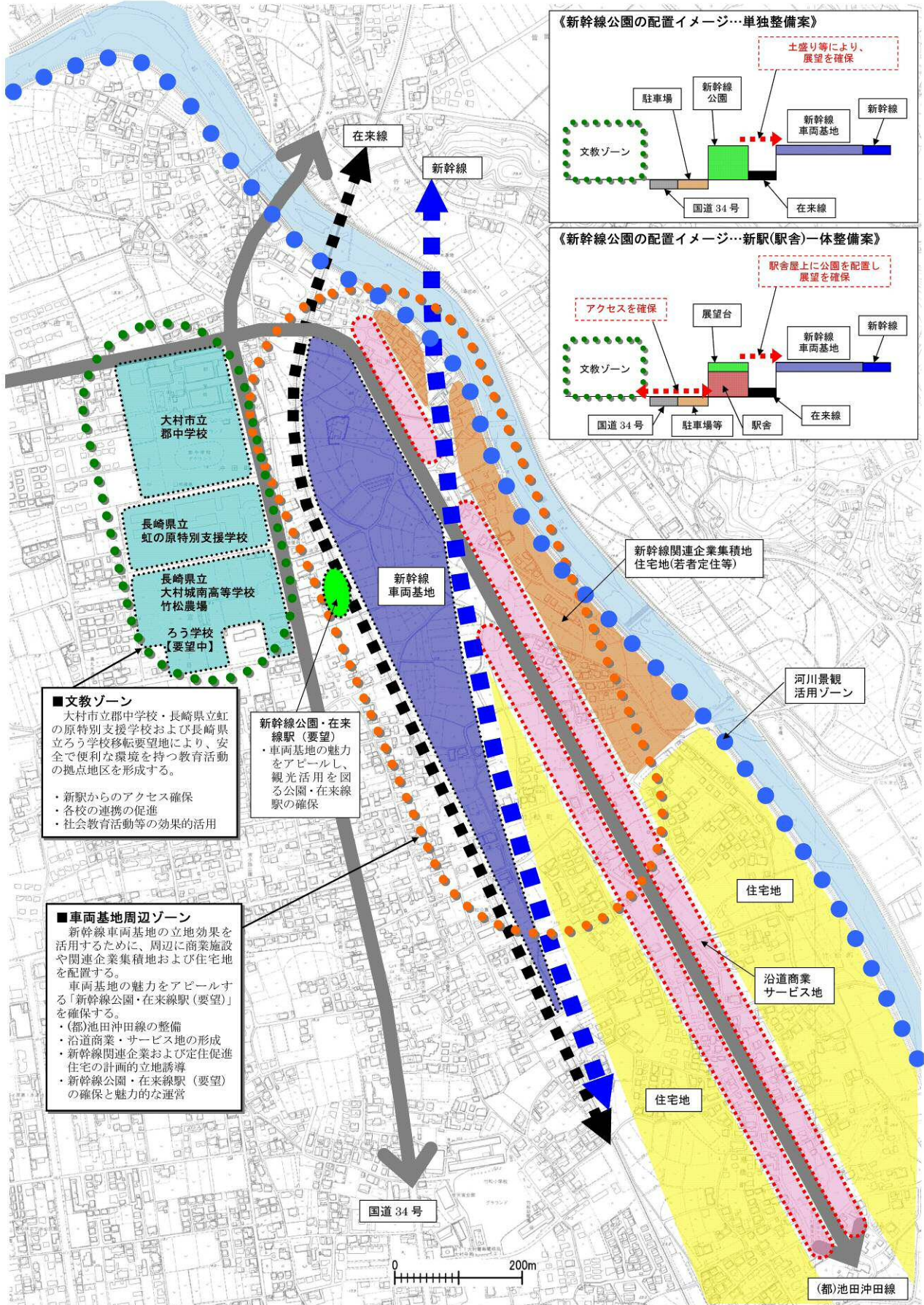
## 新大村駅前周辺ゾーンの整備方針

### (1) 新大村駅の性格・特色

- 1) 「長崎県の玄関口」および「県民サービス拠点」
- 2) 空港やI Cと連携した「広域交通ターミナル」
- 3) 大村市中心市街地との相乗効果を図る新たな活性化拠点
- 4) 大村市北部の開発拠点
- 5) 中心市街地と連携した市内観光拠点
- 6) 市内の交通拠点
- 7) 災害時の防災拠点
- 8) 景観や環境に配慮したシンボル性の高い空間

### (2) 機能展開のイメージ

- 1) 大村市の特徴である「産業・技術の集積」にマッチしたシンプルで機能的な駅構造とします。
- 2) 「長崎県の玄関口」にふさわしく、空港やI Cとの一体感を強調した「空と大地」との一体空間をデザインとして表現します。
- 3) 花と緑に囲まれた大村市のイメージを表現するために、新幹線駅と一体となった駅前公園と両施設をつなぎ、多良山系への見通しに配慮した桜並木などの遊歩道を配置し、イベント、パレード会場として利用します。
- 4) 東西駅前広場の整備、都市計画道路池田沖田線などの北部延伸、新幹線駅へのアクセス道路の東西連絡化、空港およびI Cとのアクセス強化、北部バス路線の強化、在来線駅の併設による中心市街地との連携等を通じて、「どこにでも行ける『交通拠点』」とします。
- 5) 障がいのある子どもたちの教育や自立支援を支えた県立ろう学校の敷地を活用することから、若い家族やボランティアが集う「助け合う社会」をイメージした公園（広場）を整備し、歴史と文化を象徴するモニュメントやイベントスペースを配置します。
- 6) 交通拠点にふさわしい防災設備を備えた県民サービス拠点として、災害時の支援物資の管理貯蔵、「交通滞留者」や地域住民の災害時の避難場所として整備します。
- 7) 都市の成長を支える若い世代の雇用・定住を促進する拠点として、積極的な民間活力の導入や企業誘致を図ります。
- 8) 建築物等については、周辺環境と調和した景観形成に配慮し、施設の緑化や太陽光パネルの設置など環境に配慮した取り組みを促進します。



## (1) 車両基地周辺ゾーン

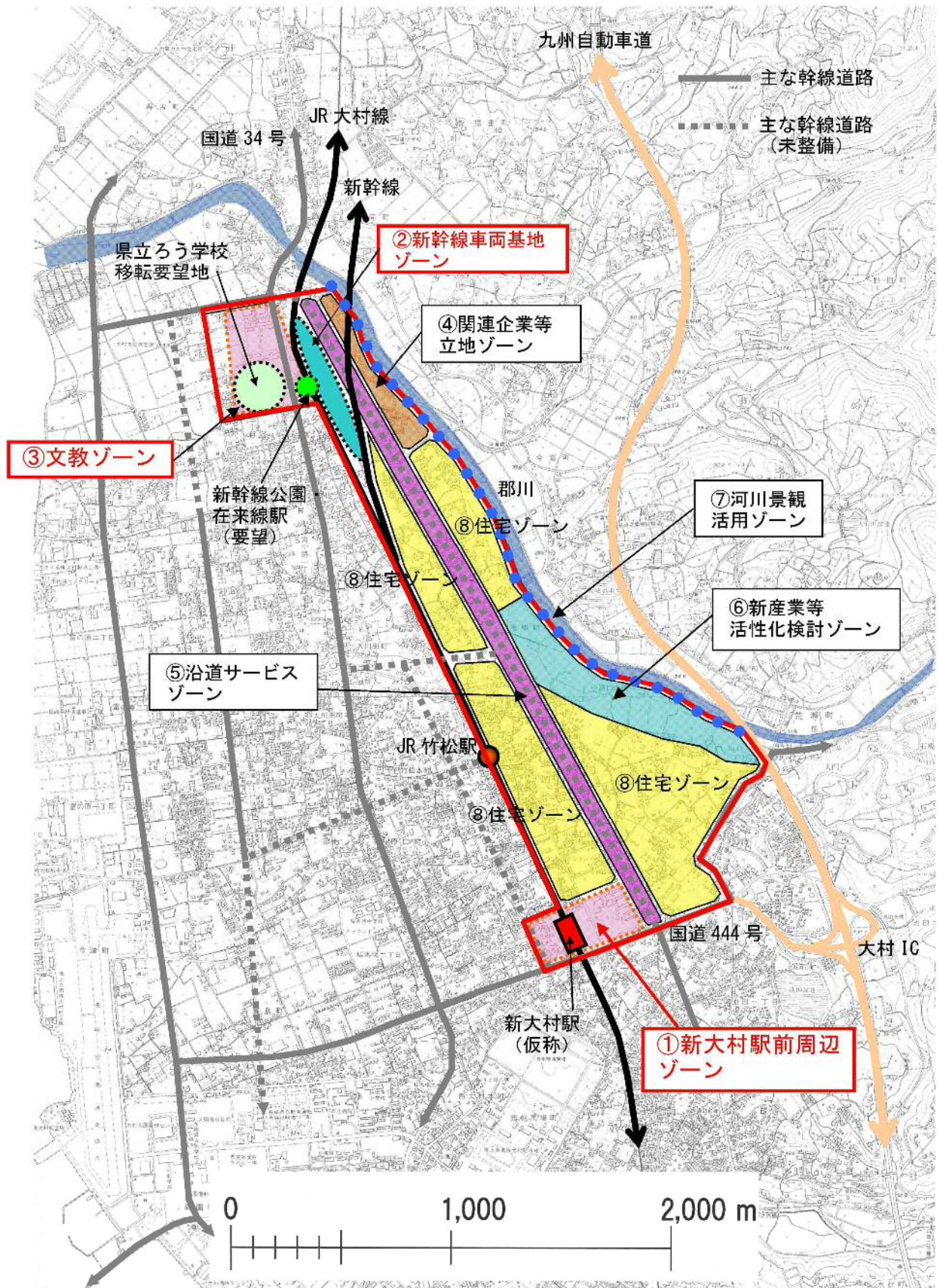
- ・新幹線と在来線に挟まれた区域に車両基地を配置します。
- ・車両基地の関連企業やサービス関連施設を(都)池田沖田線沿いに計画的に配置・誘導します。(車両基地の立地効果を効果的に活用します。)
- ・車両基地関連の就業者のための住宅を適切に確保し、定住促進を図ります。
- ・車両基地に隣接して車両基地の魅力をアピールし、観光活用を図る「新幹線公園・在来線駅(要望)」を確保します。

### <新幹線公園配置の考え方>

- ・新幹線車両基地は、周辺地盤よりも8m程度高くなると予想されることから、新幹線公園は展望を確保するために、地盤面よりも高い位置に配置する必要があります。
- ① 単独整備案…土盛りなどにより、新幹線公園を確保する案
  - ② 新駅(駅舎)一体整備案…新駅の屋上を活用して、新幹線広場を確保する案
- ※施設整備の効率性および駅の利便性、文教ゾーンへのアクセス確保の関連から、新駅(駅舎)一体整備案が望まれます。

## (2) 文教ゾーン

- ・大村市立郡中学校・長崎県立虹の原特別支援学校および長崎県立ろう学校移転要望地により、安全で便利な環境を持つ教育活動の拠点地区を形成します。
- ・コミュニティ道路を配置し、各教育施設の利便性と一体的利用の促進を図ります。
- ・体験農園の活用も含め、各施設を社会教育活動に積極的に活用します。



## (1) 基本的構成

新幹線整備にあわせ、新大村駅前周辺地区と文教ゾーンおよび新幹線車両基地ゾーンを拠点として、南北の拠点を結ぶ拠点連携軸（(都)池田沖田線）を配置することにより、拠点整備の効果を活用した活力あるまちづくりを展開します。

## (2) 土地利用ゾーン

### ①新大村駅前周辺ゾーン

新幹線新駅および在来線新駅設置に伴い、大村市の広域的玄関口機能を有する拠点地区を形成します。

### ②新幹線車両基地ゾーン

新幹線車両基地の配置にあわせて、関連企業誘致や定住促進を計画的に展開する拠点地区を形成します。

### ③文教ゾーン

車両基地整備にあわせた在来線新駅設置と県立ろう学校の移転配置を計画的に実施し、既存の教育施設とともに文教系の拠点地区を形成します。

### ④関連企業等立地ゾーン

新幹線車両基地ゾーンと一体的に、車両基地関連企業立地や住宅確保等を計画的に誘導します。

### ⑤沿道サービスゾーン

(都)池田沖田線沿線は、各拠点地区を結ぶとともに、飲食店や物販・サービス施設等の沿道サービス施設の立地を計画的に誘導します。

### ⑥新産業等活性化検討ゾーン

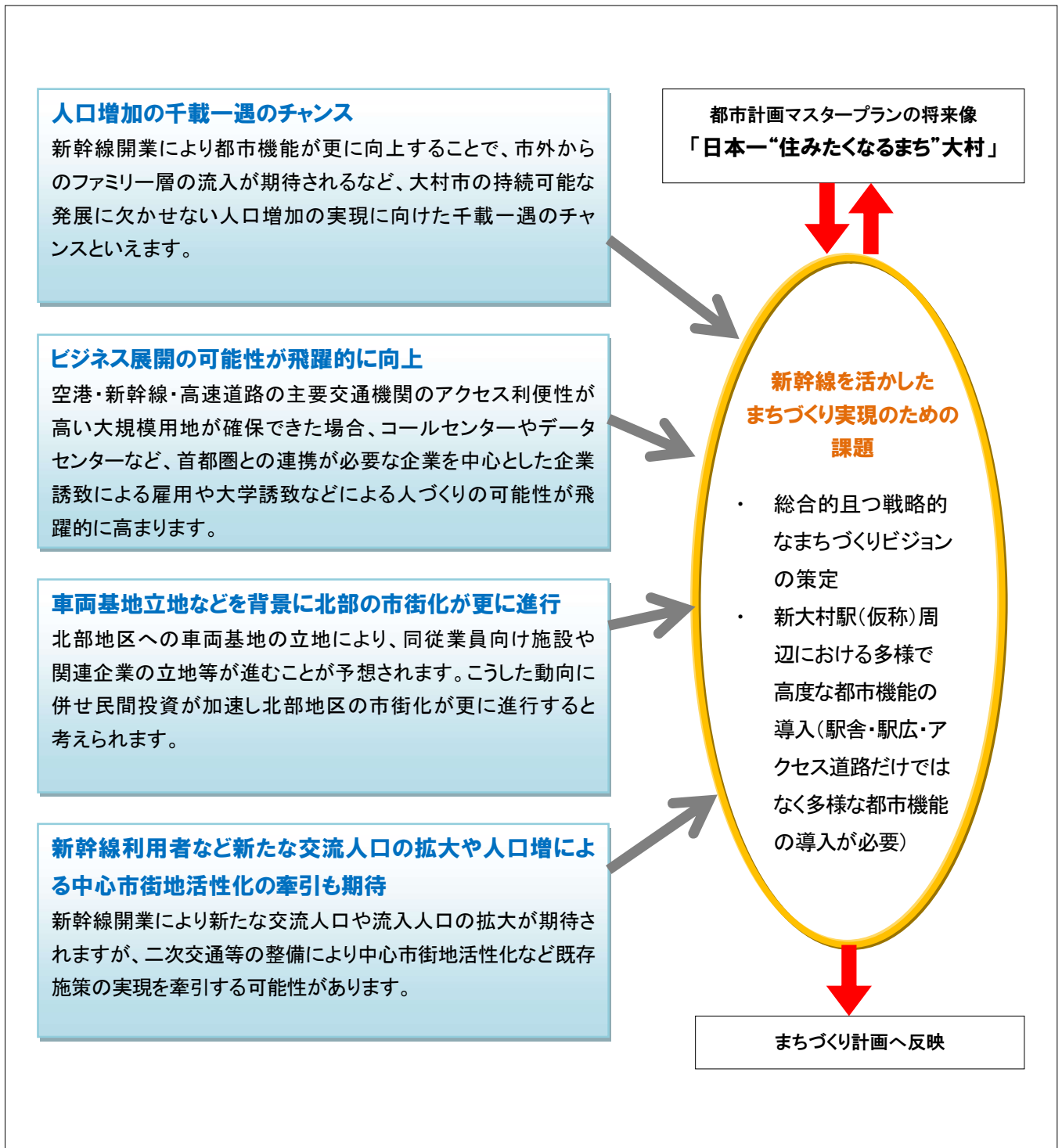
拠点連携軸のなかで、比較的まとまった都市的未利用地が広がっている区域は、中長期的に新しい産業や都市機能を配置誘導するゾーンと位置づけます。

### ⑦河川景観活用ゾーン

郡川沿いは、良好な河川景観および河川環境の保全・向上を図り、周辺市街地の環境向上および魅力化を進めるものとします。

### ⑧住宅ゾーン

既存の住居系市街地は、拠点整備などによる利便性向上を活用した良質な住居系市街地の形成を図ります。





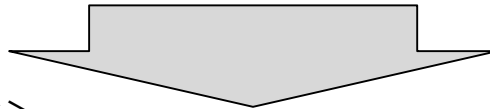
### <まちづくりの戦略イメージ>

新大村駅（仮称）の周辺に位置する新幹線駅は、長崎駅、諫早駅、嬉野温泉駅（仮称）、武雄温泉駅などがあり、それぞれの駅が持つ「イメージ」として、長崎駅は“商業・コンベンション”、諫早駅は“街”、武雄駅や嬉野温泉駅（仮称）は“温泉”が掲げられます。新幹線を生かした「大村市のまちづくり」のためには新大村駅（仮称）の「イメージ」を他駅のイメージと差別化することが重要です。

また、既設の九州新幹線各駅では、大半の駅が「新幹線駅を活用した交流」を整備コンセプトに取り入れており、交流の内容を具現化することによる差別化を図ることも必要です。

さらに、大村市の将来都市像の視点から見ると、大村駅は本市の中心市街地に位置し、大村の歴史と文化をアピールする役割を担っていますが、新大村駅は、「新しい」大村の魅力を創造していく役割も必要です。

以上を踏まえ、大村市総合計画における将来像のキーワードである“花”を意識し、他市の駅にはない“自然・緑”や“若々しさ・若者文化の創造”等を整備コンセプトのキーワードとするほか、空港・ICと新幹線駅が至近距離にあるという全国的に見ても恵まれた広域交通利便性を交流創出に活用した整備方針とします。



### <まちづくりのテーマ>

#### **世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 新大村**

豊かな自然と歴史が人々を迎え、  
長崎、九州から全国、世界へ、そして未来につながる“大村”を実感できる  
「新幹線」・「空港」・「IC」がつながるまちづくり

### <まちづくりの基本方針>

**花と緑**に囲まれた駅づくり・拠点づくり

**若者**が集い・躍動感のある拠点づくり

便利で魅力的な**新しい生活**を提案する拠点づくり

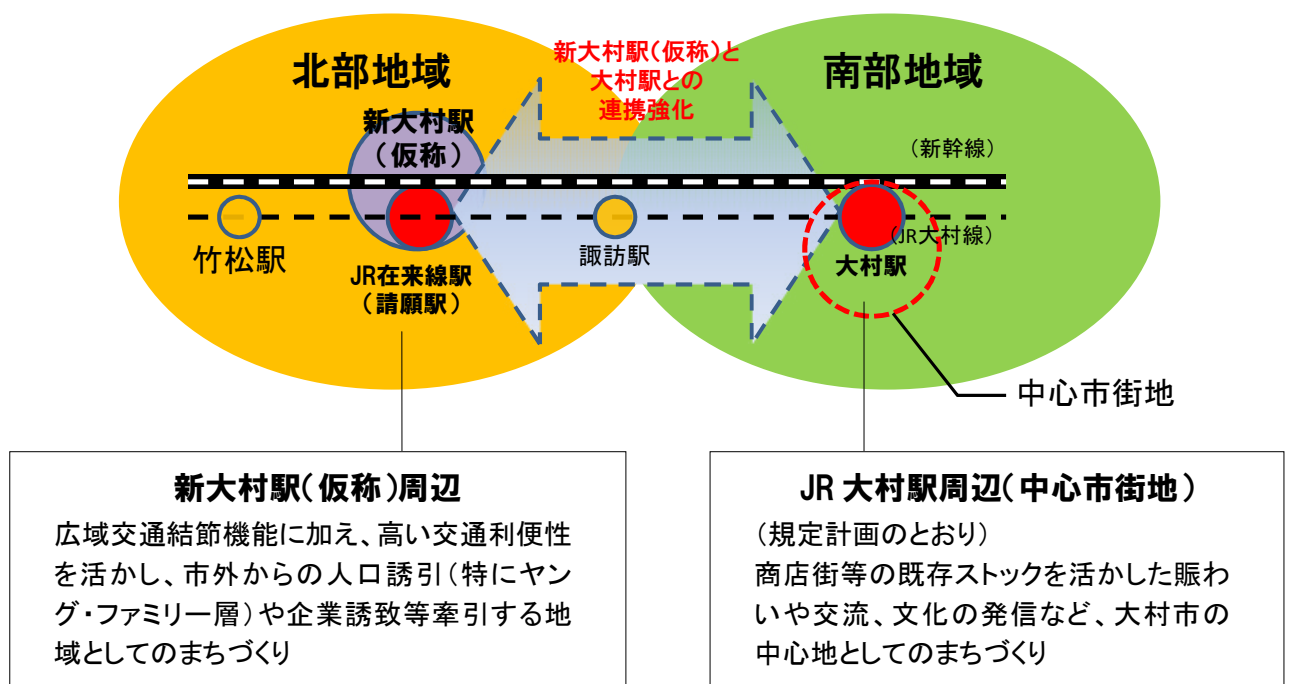
## 新大村駅（仮称）周辺と中心市街地（大村駅）を“両輪” とした 都市構造の構築

本市は、都市計画マスタープランに示したとおり、中心市街地を核としたまちづくりの展開を目指しているが、新幹線の開業は、定住人口の増加や交流人口の拡大など、本市が描くまちづくりを牽引する大きな可能性を秘めています。

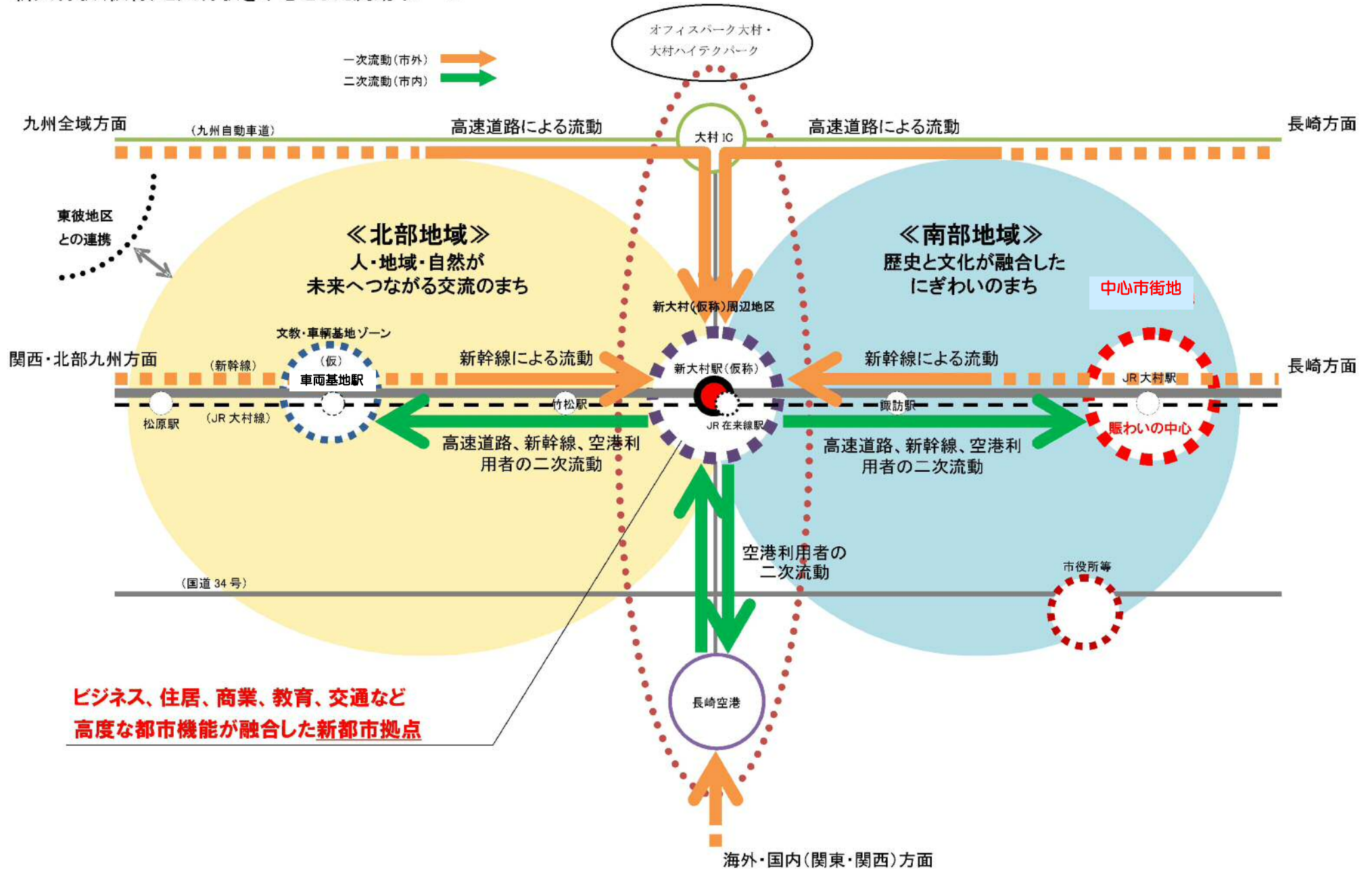
しかし、単に新幹線の“駅舎整備”のみでは、新幹線は一部の空港利用者や市外通勤者などの限定的な利用にとどまり、市全体の地域ブランドを向上させ、市外から“人”や“企業”等を引き寄せ、定着させる牽引役になるとは言い難いといえます。また、中心市街地が転入や企業誘致誘引の受け皿となることは無論理想的ですが、同地区では短期的にみてまとまった土地の確保が難しいとともに、物理的に新大村駅（仮称）から離れていることから、新幹線効果を最大限に発揮できるとも言い難いといえます。

そこで、新幹線を活かしたまちづくりの基本的な考え方としては、都市計画マスタープランを踏襲しつつ、新大村駅（仮称）周辺と中心市街地を両輪とした都市構造を形成し、中心市街地については、既定計画のとおり、既存ストックを活かしながら賑わいや交流、文化の発信など大村市の中心地としての役割を果たす地域としてのまちづくりを進める一方、新大村駅（仮称）周辺は、基本構想で位置づけられた広域交通結節機能に加え、高い交通利便性を活かし市外からの人口誘引（特にヤング・ファミリー層）や企業誘致等牽引する地域としてのまちづくりを進めることが望まれます。このように、特性の異なる二つの核の連携・相乗効果の創出により大村市の持続可能な発展を図ることが重要な視点となります。

新大村駅（仮称）と大村駅を中心とした都市構造イメージ



新大村駅(仮称)と大村駅を中心とした流動イメージ





## 參考資料



## ～ 参考資料の概要説明 ～

この参考資料は、「大村市新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画策定委員会」による報告書をもとに、今後、大村市において検討を進めていくべき内容や参考とすべき内容について整理したものです。なお、以下の概要説明については、委員会からの報告内容を掲載しています。

### 1. 新幹線を活かした大村市全体のまちづくり戦略構想・・・・・・・・・・P. 参-1

大村市の将来人口は、今後約10年後の9万6千人～8千人をもって頭打ちとされていますが、これは現在の5歳区分ごとの人口ピラミッドをベースとしてコーホート法等により推計したものであり、新幹線開業等の大きな社会変化要因は考慮されていません。

そこで、その参考にと本項ではまず新幹線新駅の設置から大村市全体のまちづくりに至るまでの効果を体系図として作成しました。次に、まちづくりの視点から見た「10のテーマ」を設定し、テーマごとに順次「戦略目標」と「戦略プロジェクト事業」を掲載しています。

大村市においては現在の「長期計画(10年間)」が平成27年度で終了し、平成28年度から新たな計画が始まります。このことから、新幹線の開業を踏まえる観点で、ここに掲げた戦略プロジェクト事業を検討する参考にしたものです。

### 2. 西九州ルート「新大村駅(仮称)」駅間利用者数(乗降客数)推計について・・・・・・・・・・P. 参-15

新幹線の利用者数は、通常、認可を行う国土交通省において費用対効果の計算に用いるために算定されています。算定方法は国勢調査の「全国旅客流動調査(鉄道)」のデータを基に、時間短縮効果による輸送転換効果を全国の地域ゾーンごとに算出するものですが、長崎ゾーンは3駅全体の推計が出されているものの「新大村駅利用者数」は不明です。

そこで本委員会では、県の新幹線建設期成会が過去に作成したデータを基に、「新大村駅」の利用者数と経済波及効果を独自に推計しました。

### 3. 新幹線新大村駅から大村市内「二次公共交通」の体系（案）・ P. 参-16

最後に、新幹線開業時に最も充実させる必要がある市内バス路線の再編案を記載しています。

その中で、特に、「新大村駅」と長崎空港間については、新幹線や航空機の発着に合わせたバスのピストン輸送が必要です。

また、現在の大村市内のバス路線は大村駅前のバスターミナルを中心としたネットワークとなっており、発展の著しい北部の市街地については十分な輸送体系が形成されているとはいえません。このことは大村市内に必要以上にマイカーが氾濫する一因と見られることから、「新大村駅」を中心とした新たなバス路線の展開が必要と思われます。

なお、「公共交通体系の充実」は今後のまちづくりの重要なテーマです。このことから、昨年成立した「交通政策基本法」や現在国会において審議中の「地域公共交通活性化・再生法改正案」等の考え方を基に、大村市においても市内バス路線の維持・充実について十分配慮を求めます。



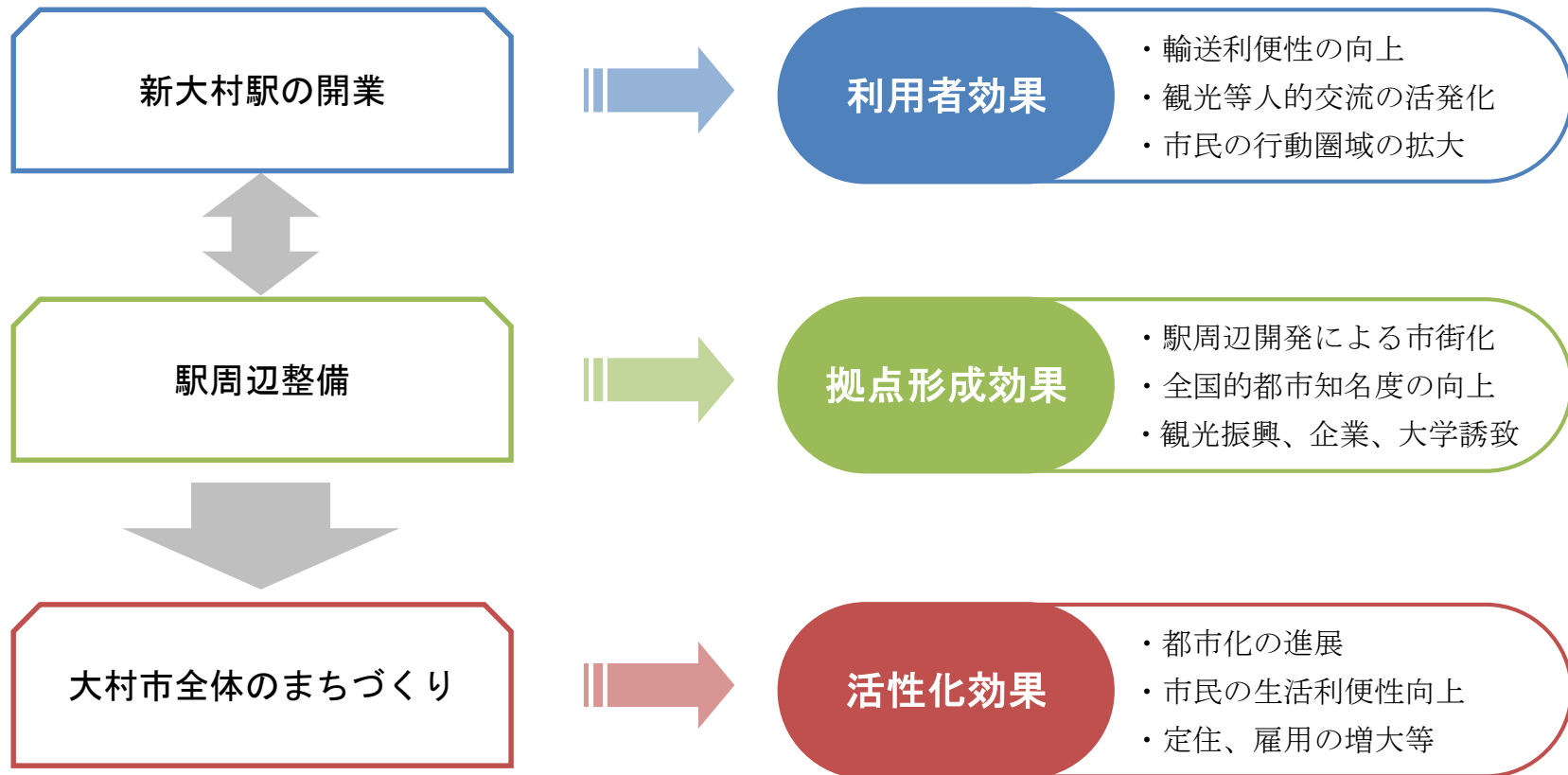
## □ 参考資料 目次 □

- 1 新幹線を活かした大村市全体のまちづくり戦略構想 . . . . . 参-1
- 2 九州新幹線西九州ルート「新大村駅（仮称）」  
駅間利用者数（乗降客数）推計について . . . . . 参-15
- 3 新大村駅（仮称）からの大村市内  
「二次公共交通」の体系（案） . . . . . 参-16
- 4 大村市新幹線新大村駅（仮称）周辺地域  
まちづくり計画策定委員名簿 . . . . . 参-17



## 西九州ルート「新大村駅」及び駅周辺整備に伴う「まちづくり」効果体系

新幹線駅の開業や駅周辺整備に伴い、「まちづくり」効果は点から面(駅周辺)、さらに地域全体に広がって行きます。



## 新幹線を活かした大村市全体のまちづくり戦略構想

### 目的

九州新幹線西九州ルートの開業を契機に、長崎県の中央部に位置し、空港、高速道路 IC、新幹線駅を 5Km 圏内に抱え、JR 在来線と新幹線が接続する「交通の要衝」という地の利を活かして、大村市全体のまちづくりを推進するとともに、地域振興、経済活性化、定住人口・雇用の拡大を図ります。

### 新幹線開業の影響

新幹線開業による交通需要の拡大＝交流人口の拡大は全国的に見れば効果が大きいものの、観光ルート、商圈等の変化、産業の立地、定住地移動等の社会現象を伴うことから厳しい都市間競争に巻き込まれます。少子高齢化による「都市間格差」を見据えた地域振興戦略が必要。

### 大村市の現状と課題

- ・人口約 9 万 2000 人。県内第 4 位
- ・県内市では唯一人口が増加しているがほぼ 10 年後には減少見込み
- ・観光客は約 100 万人。増加傾向にあるが、「通過都市」のイメージ
- ・中心市街地の商業、地場産業低調

新幹線を活かした大村市全体の  
まちづくりが必要

まちづくり  
施策展開の

## 視点

### 日本一住みたくなるまちづくり

- 「持続可能な都市の発展」を目指す
- 新幹線開業による「交流人口拡大」を活かす
- 西九州地域全体の発展に貢献する都市を目指す

### 【4つの都市戦略】

交通拠点都市

観光文化都市

産業技術都市

定住環境都市

まちづくり  
施策展開の

## 取組み

### テーマ 10

#### 【地域戦略テーマ】

- ①大村市街地の整備・・・「新大村駅」周辺整備と民間企業の誘致促進、中心市街地との連携
- ②観光・文化資源の「磨き上げ」・・・資源の「磨き上げや」新たな観光開発、PRの強化
- ③観光土産品、郷土料理等の開発・・・観光客向け土産品等の開発による地元製造加工業と商業活性化
- ④都市型公共交通ネットワークの構築・・・空港・駅・IC間アクセスと「地域回遊性」の向上
- ⑤政策連携による都市ネットワークの構築・・・多様な都市政策連携による弱点補強と交流促進
- ⑥大学等高等教育機関の誘致・・・「若者が集う」まちづくり推進、地元の若者の進学
- ⑦地域の国際化推進・・・外国との青少年交流、国際イベント開催等
- ⑧長崎空港の発展・・・国内線・国際線の路線・便数の拡大と免税店の充実
- ⑨産業技術の集積と地元中小企業の振興・・・企業誘致や中小企業の事業拡大による商工業振興
- ⑩定住、環境・景観、子育て支援等の推進・・・豊かな自然環境や景観を活かした定住政策等推進

## 地域戦略プロジェクト事業

今後5年間の事業を「短期」、開業までの事業を「中期」、それ以外もしくは期間の定めのないものを「継続」。実施を検討すべきものを「検討」と表示。

### ① 大村市街地の整備

#### 戦略目標

大村市の継続的な都市発展のため市街地のバランスの良い整備と地域連携を図り、来訪者にまちの魅力をアピールします。

#### 中心市街地

2核1モール事業の推進(短期) ~H26

県立・市立図書館建設(短期) ~H29

#### 新大村駅周辺

県立ろう学校の移転(検討) ~H29

新駅舎・駅広等整備(中期) ~H33

在来線駅併設(中期) ~H33

駅周辺民間企業等誘致(中期) ~H34

#### 車両基地周辺

車両基地建設、在来線駅・公園(中期)

県都市計画道路整備(短期) ~H28

市内北部バス路線付設(中期) ~H33

## ②観光・文化資源の「磨き上げ」

### 戦略目標

新幹線開業による外部からの観光客の誘致に向けて、地域の観光・文化資源を磨き上げ都市の魅力を高めます。

交通の利便性を活かして、既存の周辺観光都市との連携や大村を中心とした新しい観光商品の開発を進め全国にPRします。

### 観光・文化資源

キリシタン大名大村純忠公・天正遺欧少年使節の顕彰(検討)

三城城、玖島城の史跡指定(短期)～H28

郡三踊の重要無形文化財指定(短期)～H26

歴民資料館の整備とガイド養成 (検討)

### 新しい観光

大村ポートへの外国人観光客誘致(検討)

大村湾を活かしたクルーズ観光(検討)

野岳湖周辺開発による青少年交流(検討)

### 大村市の観光の現状と問題点

大村湾や多良山系に囲まれた豊かな自然や、歴史文化に根差した全国に誇れる観光資源に恵まれていますが、十分な活用・アピールが図られていない状況にあります。周辺には、国際観光都市である長崎市や佐世保市のHTB、嬉野温泉、鹿島祐徳神社等の有力な観光地が存在することから、これらの観光資源と連携した観光入込客の増加が期待されます。

### ③観光土産品、 郷土料理等の開発

#### 戦略目標

新幹線開業による外部からの観光客等に大村市のまちな魅力をPRするため、大村市の歴史、文化に根差した特色のある観光土産品や郷土料理を発掘・研究開発します。新たなビジネスチャンスを捉えて、「ブランド」化を推進し地元の製造加工業、商業の振興を図ります。

#### 産品開発

観光土産品の発掘・研究開発(短期) ~H30

郷土料理の発掘・研究開発(短期) ~H30

コンテスト等によるブランド化(中期)

#### 全国及び国際的な PR

関東、関西、中四国地方等への観光物産展(検討)

国内、国外へのネット販売(検討)

#### 近年開業した全国「新幹線駅」の事例

##### ●佐久平駅(長野県佐久市)プラザ佐久

佐久鯉加工品・銘菓・地酒・そば・漬物等約300点の市内特産品を展示販売。楽天市場インターネット販売、コレクトでの発送も行っています。

##### ●新八戸駅(青森県八戸市)地場産振興センター「ユートリー」

八戸名物せんぺい汁を含め、いちご煮、南部裂織、りんご洋菓子など地元産品ほか県内1800点の土産品を展示販売。楽天市場インターネット販売を行っています。

##### ●久留米駅(福岡県久留米市)地場産くるめ JR久留米駅店

久留米餅、藍胎漆器、城島瓦などの伝統工芸品から17の地酒、椿香水、B級グルメなど多彩な土産品のほか、新幹線開業に合わせた新商品の開発(新幹線ぐい呑み、餅つばめ柄のバッグ、地酒ミニボトルセットなど)を実施しています。



## ④都市型公共交通ネットワークの構築

### 戦略目標

新幹線の開業を機に、新幹線駅と大村駅を軸とした市街地の鉄道・バス等公共交通ネットワークを都市型に構築し「地域回遊性」を増すことでマイカーに頼らない環境に優しい社会の実現と、個人型周遊観光への対応を高めます。

### 空港・IC へのアクセス強化

空港・新幹線駅・IC 間の直行バス運行(中期)

空港と市街地を繋ぐバス路線の再生(中期)

### 都市型公共交通ネットワークの構築

通勤・通学、高齢者等へのサービス強化(検討)

市内幹線道路全域への幹線バス運行(中期)

駅から病院、商業施設等へのバス増便(中期)

バス、タクシー、レンタカー事業の再生(検討)

市内交通空白地域の代替輸送の促進 (検討)

### 地域回遊性の向上

在来線駅新設(新幹線駅、車両基地駅)(中期)

市内観光周遊バスの運行(検討) ~H33

## ⑤政策連携による都市ネットワークの構築

### 戦略目標

今後の少子高齢化社会を見据えて、新幹線駅、長崎空港、ICなどの交通拠点を活用した西九州ルート沿線、環大村湾、多良山系周辺、離島や島原半島などと、互いの「弱点」を補いつつ観光ルート開発、産品PR、MICE、IRを含む都市経営の分野での政策連携や市民交流等を促進します。

### 都市間連携の強化

ルート沿線 5 市政策協定の締結(検討) ～H30

環大村湾開発都市連携(検討) ～H30

多良岳登山道整備に向けた都市連携(検討)

近隣市町（諫早市・東彼杵町）との連携(検討)

五島市との航空物流ネットワーク連携(検討)

五島列島、島原半島との観光商品開発連携(検討)

### 期待される効果

交流人口の増加。物産加工販売。観光活性化。

## ⑥大学等高等教育機関の誘致

### 戦略目標

今後の少子高齢化の進行によりまちの活力が失われていくことを防ぐため、新幹線駅周辺の交通の利便性や、広大な土地を活用して、大学等の誘致を進め、地域の産業技術を広く海外に展開するためのグローバルな人材を育成する「若者が集うまちづくり」を行います。

### 大学等高等教育機関の誘致

誘致可能性検討(短期)

～H26

立地可能性調査の実施(中期)

～H28

用地取得、施設設計、認可申請(大学側)

施設建設、運営費等への補助スキーム検討(市)

### 新幹線効果を期待した大学等の立地イメージ

#### ○早稲田大学本庄キャンパス

上越新幹線本庄早稲田駅(埼玉県本庄市)に近接して早稲田大学本庄キャンパスが立地。附属高校も有する。新幹線開業前からセミナーハウスが立地していましたが、機能充実が図られています。

#### ○佐久大学

長野新幹線佐久平駅(長野県佐久市)の近郊に立地。新幹線駅開業に伴う周辺開発に伴い立地。

※ 新幹線通学を前提とした大学立地は難しいと考えられますが、新幹線駅開業による周辺地区の開発と地区イメージ向上および都市機能(学生等へのサービス施設)が充実することにより、大学等の立地誘導が図られる可能性があります。

また、近年、学生数が増加している通信制大学・大学院のスクーリングキャンパス等は、交通利便性の高さや環境の良さを活かした立地誘導が期待されます。

### 期待される効果

県央地域の学術文化拠点づくり

地域のグローバル化、若者が集うまちづくり

## ⑦地域の国際化推進

### 戦略目標

グローバル化の進展により、国内に居住する外国人及びその家族の定住傾向を踏まえて、文化的背景を異にする人々が共生・協働する地域社会づくりを推進します。

外国人の受け入れ体制を整備し、災害時の避難誘導、子育て・教育支援、雇用の確保等を地域で推進します。

### 地域の国際化

国際交流員の受け入れ(中期)

青少年交流、語学教育の推進(検討)

国際イベントの開催(検討)

市民「草の根」交流の促進(検討)

### 外国人の受け入れ

通訳、観光ボランティアの育成(短期)

医療福祉ボランティアの育成(中期)

### 国際社会への貢献

国際会議、国連活動等への協力(検討)

多文化共生システムの確立(継続)

## ⑧長崎空港の発展

### 戦略目標

国内及びアジアにおける LCC の台頭や今後の国の空港民営化政策等を踏まえて、県内の「空の玄関口」である長崎空港の路線・便数拡大や 24 時間化、臨空産業の誘致を推進します。

### 路線・便数の拡大

国際チャーター、定期路線の誘致促進(中期)

LCC 等の運航に対応した空港整備(検討)

国際線ターミナル・免税店の充実(検討)

### 新幹線新駅と長崎 空港の連携イメージ

空港と新幹線駅の至近性を活用して、長崎空港及び新大村駅は福岡空港・博多駅とともに、九州におけるアジアのゲートウェイとしての役割が期待されます。

### 空港発展のメリット

国際・国内線の充実による空港所在地としての都市認知度向上

空路を利用した国際、国内観光客の来訪

国際、国内、離島の貨物や臨空産業等の集積



## ⑨産業技術の集積と 地元中小企業の振興

### 戦略目標

市内における農産食品加工拡大や太陽光発電所の立地、さらに今後の新幹線FGTの基地化等を見据えて、産業技術の戦略分野である「グリーンイノベーション」や、医療・福祉、農水産業等における「ライフ・イノベーション」を推進します。新たなビジネスチャンスの拡大の中で、地元中小企業の振興を図ります。

### 新たな産業技術の 集積

工業団地の造成と自動車産業等の企業誘致の推進(短期)

再生可能エネルギー開発等低炭素化社会を目指したグリーンイノベーションの推進(中期)

医療・福祉、農水産加工分野へのライフイノベーションの推進(中期)

### 地元中小企業の 振興

中小企業振興基本条例の制定(短期)

オープンイノベーションの推進(検討)

後継者育成と世代交代の実現(検討)

### 大村における産業 振興と雇用の確保

事業所の拡大、経営革新、経営基盤の強化(継続)

産学官の連携と行政の支援(検討)

産業人材の育成、雇用の確保、女性活用による企業成長の実現

## ⑩定住、環境・景観、子育て支援等の推進

### 戦略目標

四季折々の花や自然が彩る大村市のまちの特性を最大限に生かして、定住・核家族化による人口、世帯数の増加と自然環境の共生を図ります。

「日本一住みたくなるまち」を目指して、都市化による核家族や共働き世帯の増大に対応して地域の女性やボランティア、NPO 法人等の活力を生かした子育て支援等を推進します。

### 定住人口の増加

市街地住宅区域の計画的開発(短期)

駅周辺都市型マンション、アパートの計画的建設(中期)

公園、学校、幼稚園、公民館等の建設、改修(継続)

### まちの特性を活かした開発と環境の共生

都市計画用途区域の見直しによる開発の制限(短期)

都市環境条例、景観条例の充実(短期)

### 環境保全・景観形成の考え方

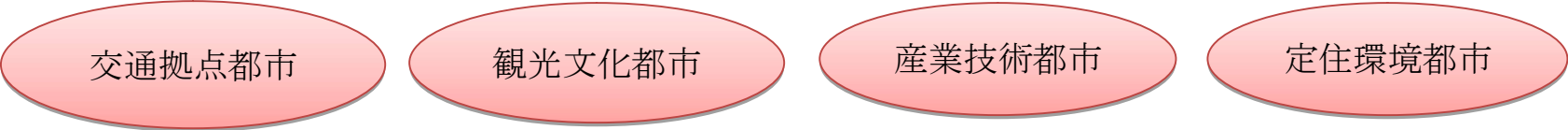
山岳や清流などの豊かな自然景観や昔ながらのなつかしい農山村風景を保全し、道路・市街地における屋外広告物や市街地からの眺望景観に配慮するなど、訪れる人や住む人にとって潤いと安らぎを感じられるまちづくりを推進します。

### 子育て支援等社会福祉の充実

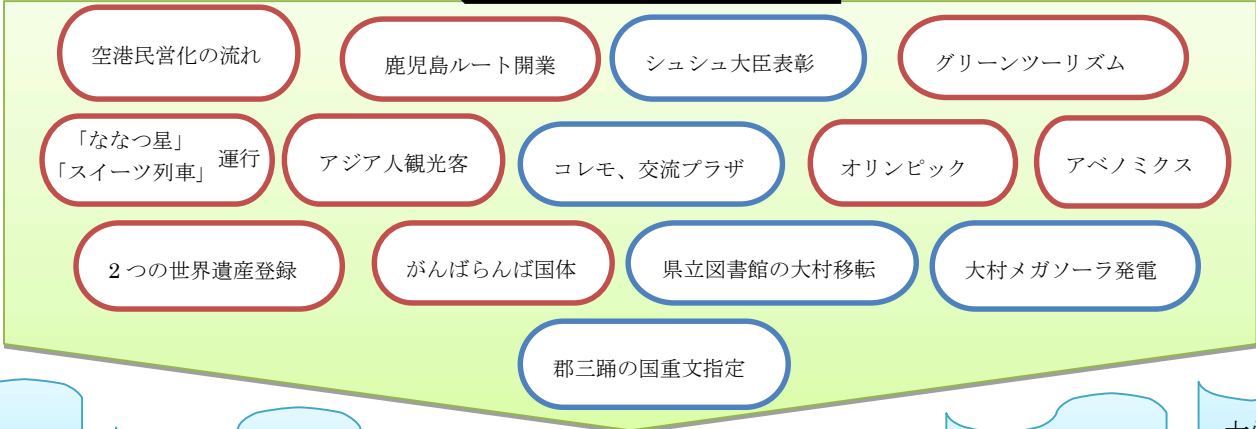
母子保健推進員等による先駆的活動の推進

子育て、医療、福祉、介護等の地域活動の推進

「新幹線開業に向けた」  
大村市の近未来像



社会の動き



長崎空港の  
発展

地域の国際化  
推進

政策連携による都  
市ネットワーク

都市型公共交通  
ネットワーク構築

大村市街地  
の整備

観光文化資源  
の「磨き上げ」

観光土産品、郷  
土料理等開発

大学等高等教  
育機関の誘致

定住、環境景観、  
子育て支援推進

産業技術の集積  
と中小企業振興

九州新幹線西九州ルート開業まで「あと8年」



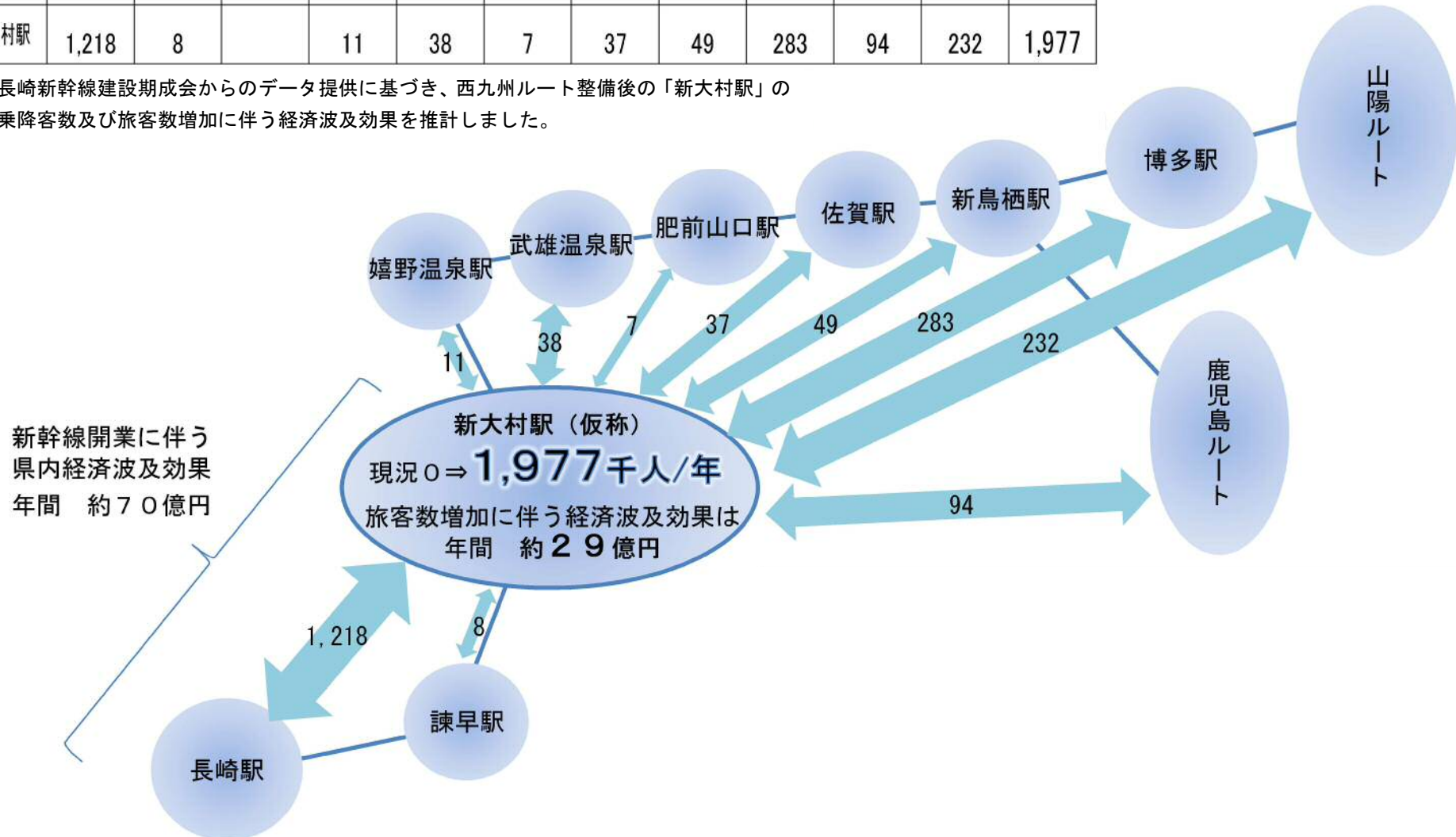
## 2

### 九州新幹線西九州ルート「新大村駅（仮称）」駅間利用者数（乗降客数）推計について

単位：千人/年

	長崎	諫早	新大村	嬉野温泉	武雄温泉	肥前山口	佐賀	新鳥栖	博多	鹿児島ルート	山陽ルート	計
新大村駅	1,218	8		11	38	7	37	49	283	94	232	1,977

※長崎新幹線建設期成会からのデータ提供に基づき、西九州ルート整備後の「新大村駅」の乗降客数及び旅客数増加に伴う経済波及効果を推計しました。

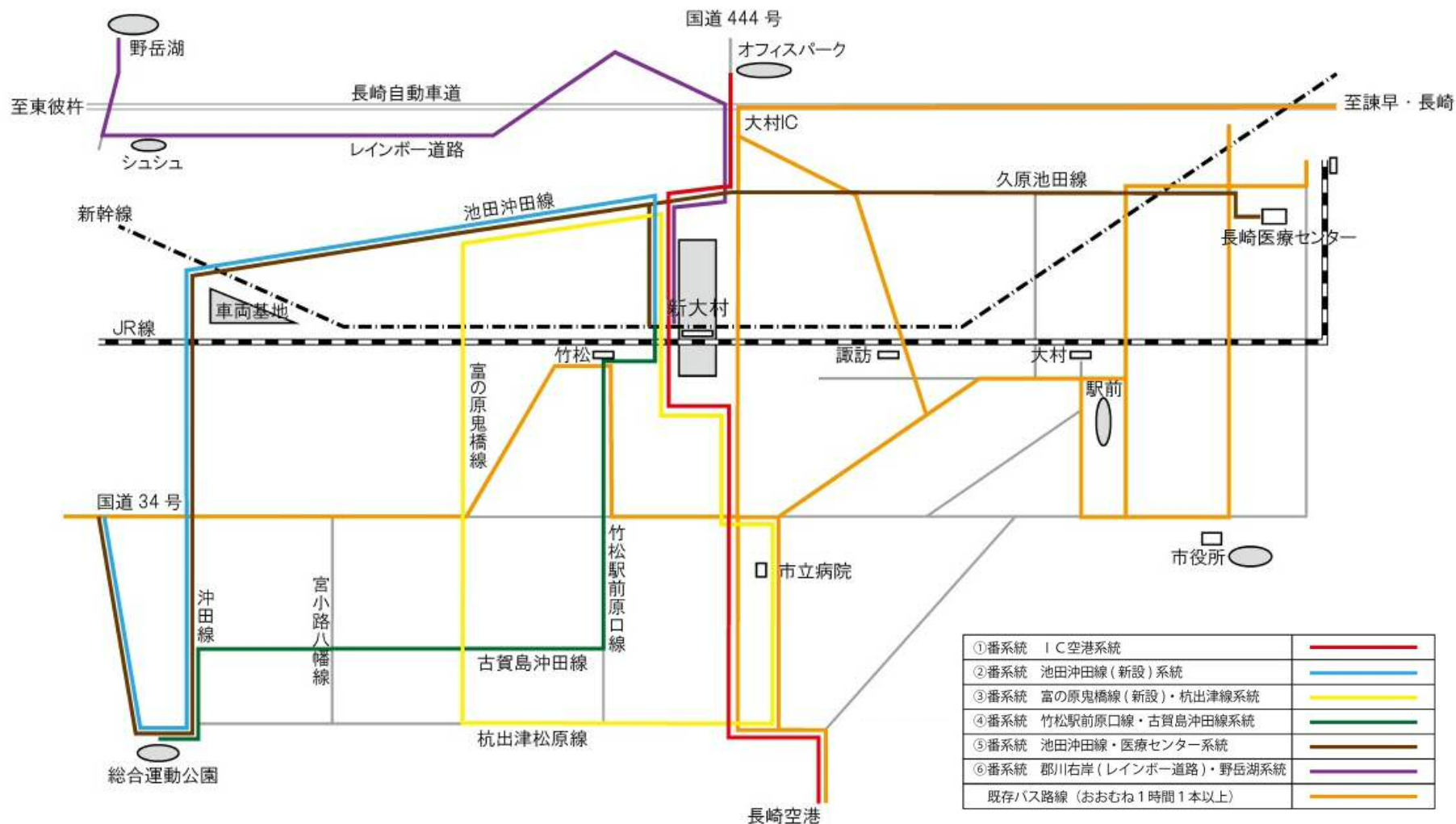


### 3

## 新大村駅（仮称）からの大村市内「二次公共交通」の体系（案）

### 新大村駅（仮称）系統の新設

- 【方針 1】 高速大村 IC(オフィスパーク含む)～新大村駅～長崎空港間のアクセス強化
- 【方針 2】 新大村駅～北部車両基地とのアクセス強化
- 【方針 3】 新大村駅～北部人口集中地区・北部文教地区・総合運動公園とのアクセス強化
- 【方針 4】 レインボー道路～野岳湖(北部農業観光地区)とのアクセス強化
- 【方針 5】 近隣市町とのアクセス強化



## 4

## 大村市新幹線新大村駅（仮称）周辺地域まちづくり計画策定委員名簿

	氏名	備考
委員長	梶 木 武	九州大学 名誉教授
副委員長	菊 森 淳 文	ながさき地域政策研究所 常務理事兼調査研究部長
委員	村 田 明 久	長崎総合科学大学 環境・建築学部教授
委員	入 江 詩 子	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 経済政策学科准教授
委員	山 口 純 哉	長崎大学経済学部 准教授
委員	彌 永 和 美	活水女子大学 看護学部 看護学科准教授
委員	日 高 誠 一 郎	長崎空港ビルディング株式会社 代表取締役社長 ※長崎経済同友会
委員	酒 井 三 郎	大村市タクシー協会 会長
委員	松 尾 剛	長崎県交通局 営業部長
委員	木 場 英 之	株式会社十八銀行 地域振興部長
委員(前任)	林 田 俊 徳	前 株式会社十八銀行 地域振興部長
委員	橋 本 純 生	株式会社親和銀行 地域金融室長
委員	中 村 人 久	大村商工会議所 副会頭
委員	谷 野 幸 司	大村商工会議所青年部 副会長
委員	指 方 宏 彰	大村青年会議所 理事長
委員	溝 田 逸 男	大村ハイテクパーク 新月会 会長
委員	井 手 真 一 郎	竹松商工業会 理事
委員	酒 井 辰 郎	大村市観光コンベンション協会 会長
委員	中 野 弘 使	竹松地区町内会長会 会長
委員	日 高 靖 郎	福重地区町内会長会 会長
委員	阿 比 留 秀 敏	西大村地区町内会長会 会長
委員	松 田 照 之	植松3丁目町内会 会長
委員	中 嶋 米 雄	大村市社会福祉協議会 会長
委員	牧 野 充 浩	長崎県企画振興部 新幹線・総合交通対策課長
委員	井 手 宏	長崎県土木部 都市計画課長
委員	林 田 秀 雄	長崎県警察 大村警察署交通課長
委員	中 島 文 雄	公募委員
委員	加 固 治 男	公募委員
委員	本 村 和 好	公募委員
委員	荒 木 理 沙	公募委員
委員	柏 木 政 樹	公募委員

オブザーバー	鈴 木 恒 男	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構次長
	高 山 智 宏	九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 経営企画部副課長

オブザーバー (行政関係)	森 隆 志	東彼杵町 総務課長
	金 子 眞 二	長崎県教育庁 教育環境整備課長
	福 田 修 二	長崎県総務部 管財課長
	峰 松 美 津 子	長崎県県央振興局 管理部課長(地域づくり支援担当)

事務局	大村市 都市整備部 都市計画課 新幹線まちづくり推進室	
-----	-----------------------------	--







大村市都市整備部都市計画課 新幹線まちづくり推進室

〒856-8686 長崎県大村市玖島1丁目25番地

TEL 0957-53-4111 (内線 438) FAX0957-54-9595

E-mail : [toshikeikaku@city.omura.lg.jp](mailto:toshikeikaku@city.omura.lg.jp)